

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (可・ 否)

区 分	1.森づくり 4.森と暮らし	2 森の恵み 5.森の文化財	3.森と技 6.森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 木地師	(ふりがな) きじし	
地域独特の呼び方	—		
タイトル	木地師		
伝承地域	南会津郡南会津町(田島地区)		
由 来	<p>(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで(いつまで) 伝えられたか)</p> <p>トチやブナを材料としてロクロ引きした椀などの木器を木地といい、この製作に当たる職人を木地師という。</p> <p>会津地方では漆器産業が盛んであったことから、木材資源の豊富な奥会津地方には多くの木地師がいた。</p>		
内 容	<p>(内容とともに、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども)</p> <p>元来木地師は山の中に木地小屋を建て家族と共に住み、周りの立木を伐り尽くすと別の山に移動するという生活を送っていた。近世にはいると、漂泊する木地師集団も定着化していく。漂泊して歩く時代から木地師たちは「木地屋証文(木地屋文書ともいう。)」によって伐採と移動の特権を主張した。近代に至っては山手代を村に支払うようになった。</p> <p>田島町では中山峠から駒止峠、さらには船鼻峠など町の全域にわたって彼らの足跡がしるされており、昭和の初め頃まで家族を引き連れ仲間と移動していた木地師もいたという。</p> <p>木地作りは夫婦または男女の分業となっており、家族の女性は少女期から木地作りの訓練を受けて一人前になった。木地師仲間以外の女性では木地作りに不慣れなことから、木地師の社会内で完結する婚姻が習慣化し、特殊な職業集団を形成したともいわれている。</p>		
文化財等の指定状況			
問い合わせ先	(出典)『田島町史 第4巻 民俗編』 南会津町教育委員会		

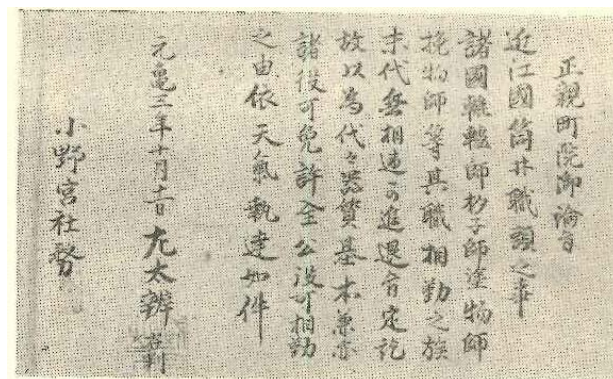
【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名（ふりがな）		※顔写真ありましたら、コピーか電子ファイルをご恵与願います。（貼りつけずに名前がわかるようにして同封ください。）
	性別・年齢	男 ・ 女	
	生年月日	明治・大正・昭和・平成 年生	
	住所・電話	〒 電話	
職業			
団体	団体名（ふりがな）		
	代表者氏名（ふりがな）		
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成 年 月 日	
	問い合わせ先		電話

【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

キーワード

木地屋証文（正親町御諭旨）



(南会津町教育委員会)

※活動の様子が分かる資料等があればコピーを1部ご恵与ください。